

令和7年度 第2回生駒市社会教育委員会議録（要約筆記）

1 日 時 令和8年2月26日（水） 午前10時00分～午前11時45分

2 場 所 生駒市役所 4階 大会議室

3 出席者

（委員）大谷裕美子委員（議長）・小竹仙哉委員（副議長）・浦林直子委員・岡島保弘委員・上武敏一委員・坂本剛伸委員・清水泰之委員・白井一三委員・田村未来委員・中畑直実委員・松木厚子委員・連靖和委員・山上哲委員
（事務局）原井教育長・坂谷生涯学習部長・甫田生涯学習課長・綾野生涯学習課専門官・福田生涯学習課主幹生涯学習係長兼務・西野図書館長・谷江図書館北分館長・中川図書館南分館長・入井駅前図書室長・西スポーツ振興課長・生涯学習課 山本・松井・金田

（欠席者）大野與志子委員・大畑スポーツ振興課長補佐

（会議の公開・非公開）公開

（傍聴者）なし

4 議事内容

(1)令和8年度「社会教育基本方針及び重点目標」について

(2)その他

(1) 令和8年度「社会教育基本方針及び重点目標」について

■「令和8年度社会教育基本方針及び重点目標（案）」について、第3次生駒市教育大綱の基本方針に基づく重点目標を事務局より説明、具体的な事業内容（予定）を各課より説明。

■令和8年度重点目標や事業についての質問や意見

浦林委員 説明、報告いただいた今回の事業内容は取組みとして素晴らしいので、このまま進めていただきたい気持ちです。

私からは、基本方針の「主体的に学ぶ「人」を育み、人と人がつながり支え合える「地域」を市民とともにつくります」という文言に対する意見を述べさせていただきたいです。

教育大綱から社会教育の分野に基本方針が作成されているという構造については理解しております。基本方針についても、以前にここでしっかり議論していただいたうえで決めていただいたものだと理解しています。

社会教育基本方針としてまず最初に「主体的に学ぶ「人」を育み」というのが何のために示されているかという、社会教育におけるどのような人だったり地域だったりを目指すために、まず主体的に学ぶということが念頭にあると思っています。

生駒市の教育の流れとして、全ての人が自己実現をしていくために、学校教育においても子どもたちが自分の好きや得意なことを実現させるためにその方針をしっかりと学校の中で立てておられ、市では行事としてサポートされている中に社会教育というものがあるのはわかりませんが、もちろん自己実現ということがとても大事だとは思っているのですが、その次にある、「人と人がつながり支え合える「地域」というものの捉え方をどのようにされているのかということ考えた時に、社会教育において、学校教育以外の家庭とか地域づくりにおける目標として、まず「主体的に学ぶ「人」というのが最初に来ているというのは、自己実現が大事というふうにとらえて、では出口とか目標のターゲットがどこにあるのかとずっと考えながら参加させていただいています。

その上で、10月3日の第72回奈良県公民館大会合同大会で大正大学の牧野教授がお話された基調講演「『よきこと』をつなぐ、『よき存在』になる-『ふるさと』をつくる社会教育-」の資料が配られていますが、その内容についてお話しします。

教育振興基本計画を議論する場面で、ウェルビーイングの話題が出ていることが書かれていました。ウェルビーイングは心理学の概念を用いているため1人ひとりが幸せな状態にあるということが前提で、自分を取り巻く環境を良い状態にすることは社会教育の分野で、1人ひとりが自分の努力で幸せに向けて頑張っていくことを支えるのが生涯学習であるとわかりやすく言ってくださっている。

また地域の事例で、子どもたちを支える大人の関係がすごくいい社会では、子どもたち自身が地域とか大人に対して自分たちも何か力になりたいと思うような気持が育まれることや、社会教育における学びを通じて、人々のつながりや関わりをつくり出し、協力し合える関係の土壌を耕しておくことが社会教育の役割であるというふ

うに書いてあります。

社会教育というのが、全ての人々を包括する形で、お互いがつながりあったり、関わり合ったりして、温かい地域をつくっていくことが大事なのではないかということが書いてあります。

子どもたちが小さい頃からボランティア経験を積んでいると、大人になるにつれて、社会貢献に対する意識が強まるとか、早くから子どもたちが大人の中で経験を積んで、大人たちから「それで大丈夫」と言われるような環境をつくることで、子どもたちが「地元貢献したい」とか「誰かのために何かいいことをしたい」という考えが身につくということが、島根県の事例にもありました。多世代で自分の人生を語り合いながら、子どもたち自身が自分の人生を考えるという取組をしていることによって、中学生たちが「自分たちは地域に対して、こんなことができる」と提案するようになってくると書いてあります。

大人たちとの関係性が良くて、その中で子どもたちが地域の中で多世代と関わりを持ち続けることによって、地域の中で自分のふるさどを見つけ出していき、そして良い関係性を育み、作っていくのが社会教育として大事なことであるという視点を書いておられました。

これを読んで、とても共感したところは、多世代がしっかりと関わってつながりとか心の満足感とか安心感を得られるということは社会教育の分野でしかできないんじゃないかと思いました。

その講演の内容を参考にした上で、前にも言ったかもしれませんが、生駒では、たとえば子ども向けの ischool for kids があります。働き世代、現役世代の方たちをターゲットとしても ischool など実現の場所を提供している。寿大学は 62 歳以上の方を対象にしています。それぞれの世代における自己実現とか、自己満足のための企画というものもちろんあってもいいんですが、基本方針に掲げられている「人と人がつながり支え合える『地域』をつくる」というような視点をもう少し大切に考えたいと思いました。

大谷議長 ご意見として参考にしていただいたらいいかと思います。教育委員会ともお話していただけたと思います。

岡島委員 浦林委員に私が参加した10月3日の講演の内容を説明していただきました。
さっと読まれてすぐにわかり、他の人にわかるように説明していただいてコミュニケーションにつなげるのも、教育支援の立場から社会教育の一つかと思いつながりながら聞いていました。

質問させていただきます。事業内容案の生涯学習課「市民みんなで創る音楽祭におけるアウトリーチ」の「アウトリーチ」という文言はどんな意味ですか。

浦田生涯学習課長 今まで出張演奏という表現にしていたのですが、この音楽会にエントリーされている演奏家が来て欲しいという学校と調整して、学校に出向いて演奏するだけでなく、子どもたちと演奏とともに歌ってみたり楽器に触れてみたり体験したりすることをすべて合わせた形をとっているのです。出張演奏という表現より「アウトリーチ」と表現する方が正しいのではないかとということで表現を修正しています。

岡島委員 また、この「アウトリーチ」という言葉の意味がわかりにくいと思うのですが、表現は他にもつかわれていますか。

浦田生涯学習課長 この音楽祭に応募される方の募集要項に「アウトリーチ」事業と一つ項目を設けて記載しています。

上武委員 私は浦林委員と知っていることは同じで、言葉にさせていただいてありがたいと思っています。

重点目標の、「生駒の歴史や伝統文化を学ぶ機会」とか、「郷土の歴史を通して」ということですが、歴史や伝統文化だけではなく、それ以外でも、生駒市には郷土愛を高める、まちへの愛着や誇りを高めるようなことがたくさんありますので、商工会議所として、小さいけれどすばらしい企業がたくさんありますし、そういうところもとりあげて学ぶ機会があればいいと思います。あと、事業が与えられるものばかりなので、作りだすものとか、奉仕したり貢献するものが、もうちょっとあってもいいかと思いました。

坂本委員 社会教育という観点から見て、大きな基本方針があって重点目標があって具体的な事業内容がある。大枠ははまっていると評価していますが、事業をすることによって何が達成できるのか紐づいていないといけません。概ね枠にはいつている、ただマトリックスになるような事業もあるのではという風に思いました。

また、これを企画しているのは今のところ行政が中心ではないかと思います。

それを継続することによって成長する度合いをどこで見るかという尺度は、その企画段階から参加してもらうのも一つではないか。最初は参加するだけですが、最後のアウトプットとして、自分たちでも計画していきましょうということを重点目標として達成していく必要があるのではないのでしょうか。

私が知りたいのは、この重点目標の資料が紙1枚になるまで分析した内容の資料があると思うんです。1つ1つの事業の大きな目標に対して、具体的な目標をどこに位置付けているか見えない。なぜこれを達成するんだらうとおぼろげにしかわからないので、そこがわかる資料があっただけではないかという感じがします。

清水委員 浦林委員と坂本委員がお話されたことを前提に、今までやってきた事業というのは、手段であって目的ではないと思います。こういう人をつくるという目的に対して、こういうことをやりますという手段であってそれはよくわかりました。事業をやってきた結果、重点目標に対してどのようにこどもが変わり社会が変革し地域が変わってきたのかという分析をしないと、持続性がなく、年度単位でこれをやりますと単発になってしまうわけです。

そのところを社会教育でこういうことをやってきた結果、将来的なゴールはなかなか見えないけれど、どのように考えているのかと言ってもらえたらいいと思います。これが1点目です。

2点目は、質問を兼ねて意見ですが、基本方針で「人」「地域」という文字に括弧（「」）がついている意味を教えて欲しい。なぜ付けたのか、どういう意味があるのか。括弧を付けた時にどういうことを市民に訴えようとしているのか、この括弧を取った時に目標の意味が変わるのか。

私はなくてもいいんじゃないかと思っています。括弧をつけるんだったら、「主体的に」「つながり支え合える」という大事な言葉にこそ括弧をつけた方がより分かりやすくなるのではと思っています。なぜならこれこそが内容であって、人や地域という概念をどうつくるのかという具体性を示すわけですから。

例えば最近オリンピックで「りくりゅうさん」に感動しましたが、あるマスメディアは金メダルよりも、その裏にあった支え合いだとか、相手を信頼すること、そのつながりに

こそ金メダルを与えるべきではないかというコメントをしました。まさしくその通りで、金メダルが目的ではなく、その裏にあったことに重点を置くべきだということです。その意味から「主体的に」「つながり支え合える」に括弧をつけて、市が何を目指しているのか、どういう人づくり、どういうまちづくりを目指しているのかということがよりわかりやすくなるのではないかと。

3点目は、目標について誰が主語で書かれたのか。市が市民に対してお願いするという立場で考えられて書かれたのか、市民を主体にして書かれたのかで文章が変わってくると思います。

これを読んでも、「主体的に学ぶ」「人」を育み」というのは、生駒市はどういう人を育みたいのか、私だったら具体的に、「市民が諸活動に参画することを通して」とか何かもう一つ付け加えたらわかりやすくなるんじゃないかと思います。

その次に「『地域』を市民とともにつくります」と書いてあります。では、市民とともにというのは誰となのか。市民が市民同士でつくりなさいという風な表現に読み取れますが、このところは、主語が誰なのかによって読み方が変わってくるので、短くされている文章を、言葉の内容を整理して一番上の基本方針を掲げた方がいいのではないかというのが率直な考えです。

私だったら、「市民が諸活動に参画を通して、主体的に学ぶ人の育成と、人と人が支え合える地域社会の創造を目指す」とします。「参画」という言葉を使ったのは、この前の二十歳のつどいは、運営委員会がつくってあれだけすばらしいものが出来ているので、市民が参画することが大事だと思いました。ここには「つくる」と書いてあるが「目指す」の方がいいのではないかと思いました。

括弧について意味があるのか、教えていただけたらありがたいです。

大谷議長 いろいろご意見をいただいた中で、なぜこの箇所に括弧をつけられたのかというご質問があがっているので、お答えいただけますか。

坂谷生涯学習部長 各委員に言っていただいたご意見は私たちが考えていることで、ウェルビーイングというものを考えた時に、個人のウェルビーイングという幸福感を持続させるためには、地域自体がウェルビーイングじゃないといけない。その個人や地域のウェルビーイングを高めるためのコンテンツは何だろうかというのを、私たちは日頃い

ろいろ議論していろいろな事業に落とし込んでいるのですが、例えば個人のウェルビーイングというものを感ずるためのものとしてはスキルや思考力を高めていただいたり、お話にあったような自己実現とか自己受容というものを高めてもらうような機会、それを持続していく場としてのウェルビーイングは、安心と安全であったりとか、秩序と規範が守られている地域であったり、そういうものが循環することによってよりよい地域づくりが出来ていくのではないかと担当と日頃ディスカッションしながら企画をしています。

生涯学習の講座をすすめていくうえでは、参加者は個人の方になります。でもその向こうには学んだ方の学び、気づき、ウェルビーイングというものが持続するための地域というものを意識しているということで、私たちは、「人」と「地域」の両方を意識して企画をしたり事業を展開してますという意味合いを込めて、「人」と「地域」というところをクローズアップさせていただいているところです。

主語は、社会教育基本方針を定めている立場として教育委員会になります。教育委員会が市民のみなさんといっしょに目指して実現していくものです。

山上委員 民生委員は地域で高齢者の方にかかわっています。参考にさせていただきたいことが2つあります。

1つは、ふるさとミュージアムの共同学習などによく私も広報誌を見て申し込んで参加しているのですが、応募するときのチャンネルが、電子化していても、電話や、ネット、メール等申込チャンネルがいろいろあって、高齢者にとってありがたいです。行かせてもらって新しい知見があり、高齢者にとっては学びの場になっており、さらに住んでいる所に帰ってサロンなどで話をするので地域の役に立つことができるので、申込のチャンネルは今までどおりいろいろやっていただきたい。

もう1つは、スポーツで、自分たちで健民グラウンドで朝のラジオ体操に参加している高齢者の人から聞いた話では、公共の施設が開いていなくて、当番の誰かが鍵を持っている。鍵が閉まっていてトイレが利用できなくて困るので途中で帰ってくるそうなんです。自分たちでやっている時のスポーツの参加を維持できる環境づくりの配慮をお願いしたい。トイレの清掃の委託などいろいろあるのかもしれませんが、考えていただけたらありがたいです。意見としてお伝えさせていただきました。

大谷議長 実際に活動していただくにあたっての環境的なことです。

連委員 子どもの代表の立場から意見を述べさせていただきます。

子どもたちにとって生まれ育ってきたまちの良さをどう表現するか。子どもたちが、生駒の良さ、すばらしさを見つけ出す活動が大事なんじゃないかということと、もう1点いろいろな個性がある子どもたちがいるので、その個性を否定しないことが一番大事だと私自身は思っているので、来月15日のしこれんフェスタで、子どもたちが自分たちで考えた短い1分間のゲームをお客さんに発表して体験してもらうなど、今いろいろ考えて準備をしております。そういうことも大事じゃないかと思います。

松木委員 PTAの理事会や役員会をする時に、理事とお話することが多いため、それをふまえて質問ですが、基本方針の図書館の部分で「学校園等へのアウトリーチサービス」と書かれているのは、具体的には幼稚園等の依頼があれば読み聞かせなど出張とかあるんでしょうか。

なぜかという、子どもへの読み聞かせをボランティアとして幼稚園の中で募られるのですが、お子さんたちが小さくてお母さん同士のボランティアが不足しているということを知って、ボランティア自体はあるけれど、園に来られている保護者たちにしたらず素性の知れない人が幼稚園に出入りされるのが不安だという声が多いらしいです。ボランティアに行きたい地域の人と来て欲しい園側を取り持っていていただくことはあるのかお聞きしたいです。

西野図書館長 図書館側からの意見になってしまうんですが、図書館としては幼稚園の先生と連携を取って、図書館の職員が行ったり、生駒おはなしの会の方に行っていたりしています。その中で気付いていない部分がたくさんあるだろうなと思っていて、今いただいたご意見は非常にありがたいです。

具体的にどこの園で要望があるか教えていただきましたら、個別に図書館と幼稚園で話し合いをしてプランを立てながらすすめていきたい。園によっても方針がありますし、できることできないことがありますので、いきなりどうぞというのは難しいと思いますが、話し合いをしながら進めていけるように考えていきたい。この会議が終わってからも具体的に教えていただけたら相談させていただきたいです。

松木委員 地域同士のつながりがすごく大事とおっしゃっているんですが、家庭でもそういうこ

とが大事かと思っていて、周りが先にするよりも自分たちがこどもにどう見せるかというのがすごく大事かと思っています。私の場合は、家がとても田舎なので近所のおばちゃんたちが朝行くときに声をかけてくれたり、「ちょっとご飯が多くできたから持っていき」と言ってくれたりする地域ですが、私自身も近所の方とお話しする姿をこどもに見せるのも大事なかなと思っていて、そういうことも続けていきたいと思っています。

大谷議長 ぜひつながっていただきたいと思います。

中畑委員 乳幼児期のウェルビーイングの出发点って、自分が大切にされているということだと思うんです。それが自信になって遊びが広がったり、お友達を作ったり、積極的になったりしていきます。

私は保育会なのでそこを基本に考えていて、この具体的な事業内容に参画した市民が、「来てよかった、楽しかった」と隣りに座った人と会話して友達になったというのが小さなウェルビーイングになって、心の平和になるかと思うんです。

事業内容を示していただいて、どのようにして幸せを具体化していくのか、そこを意識してつくっていただくということが大事なのではないかと思いました。

質問ですが、生涯学習課「新たな演奏家発掘事業」はユニークだと思ったんですが、発表の場で人生が変わった人が出てくるのかもしれないなと感じています。生駒市出身の方を対象にチャンスがあるのでしょうか。

甫田生涯学習課長 この事業は原則生駒にゆかりのあるアーティストを対象とさせていただき、若いアーティストたちが、自分たちの活動の場所をなかなか見つけられていなかったり、もっと活動を広げたいと思っても発表の場がない。ある程度活動をしている中で、固定客のみになっているところを、もっと広い世代に聞いていただきたい、年齢層も広げて聞いていただく場をつくりたいと思っています。

「市民みんなで創る音楽祭」は公募型でつくられていますが、企画をたて提案を立て採択されるのがハードルが高いように見られていて、ハードルをもう少し下げて多くの方々が出て頂けるような場をつくって本公演につなげていけるよう企画しております。

中畑委員 もう一つ、スポーツ振興課の西課長が、市民のスポーツ活動が広がるように考えて

いるということで、こどもにとっても運動発達が大事だし、シニアにとっても運動することていろいろなことが広がっていくと思うんです。重点目標にスポーツ振興課「市内の総合型地域スポーツクラブの設立や発展を支援します。」とありますが、スポーツクラブは私は営利目的とってしまうのですが、生駒市はどういうものを支援するのか聴きたいです。

西スポーツ振興課長 総合型地域スポーツクラブにつきましては国がすすめているスポーツ事業の大きな施策の1つで、総合型地域スポーツクラブの認定登録制度が出来ていまして、民間のスポーツクラブではなく、公益的な組織として、生駒市も国の制度にしたがって進めていきます。

この制度ができたことで、より公益的な活動が可能になったと感じております。

田村委員 私は初めての参加です。たくさん話を聞かせていただき、ありがとうございました。

白井委員 今回見ているといろいろなことをされている。行政もやっているし、地域も動いている。いい動きなんです、それが目に見えてこないんです。目に見えてくる仕掛けもつくっていかないといけないと思っています。

スポーツ振興課の西課長に1つご質問です。

今回「総合公園体育館」という名称が急に出てきたが、その意図はあるのでしょうか。

西スポーツ振興課長 「総合公園」の中のリニューアルということで、公園一帯が「総合公園」と位置づけられているので、その名称を使っています。

白井委員 去年はこの名称が出ていなかったですね。国民スポーツ大会(国スポ)・全国障害者スポーツ大会(全スポ)を見通して出した整備事業なのでしょうか。

西スポーツ振興課長 令和6年度に、すべての体育施設の調査を行い、特に総合公園の状態が悪かったので、令和7年度の具体的な事業内容のところで、事業計画を策定する流れになっております。事業としては今年度から進めさせていただいています。

小竹副議長 学校教育からの代表者としていつも思うんですが、学校教育も、社会教育も別々ではなく、パイプでつながることでお互いウェルビーイングになるのかなと考えています。今日いろいろな話を聞かせていただいている、まず私が率直に感じたことをいくつか言わせていただきます。

実は自分が住んでいる市では生涯学習推進委員を15年余りやっています。その立場から、図書館もそうですが、公民館活動で毎年暮らしの創作展というのが行われていて、カルチャー教室からの出品があったり、実演などをやって、活動の見える化をやっている。

生涯学習推進委員が交通整理とか駐車場の事などをやったりして、いろいろなお手伝いをしています。いろいろな方に知っていただき、活動が大きくなることで社会教育の意義が広く伝わっていくと思っています。私は校長会長として参加させていただいているので任期が単年で、「人」と「地域」の括弧書きについてこれまでのいきさつが分からないわけです。私なりに考えると、生駒市を作っているのはこの地域であり、そこに住む人です。この2つの要素があって生駒市が出来ていて、地域で人が営みを深めていくなかで様々な活動を通してウェルビーイングを感じることで、人が憧れるいい市になって、人が集まってきてというようなことにもつながっていくのではないかと。人の営みの中に社会教育があると考えながら、重点目標を見せていただいていたんです。

単年しか社会教育委員でないことが残念に思うのは、学校教育は単年で終わることではないんです。中学校は3年、小学校は6年、わたしどもの小中学校は9年と継続性があり、その中で学校教育に地域力を入れていただいていることで、地域とのつながりが出てきています。私たちの学校のある高山は茶筌の里なので、小学生が年間7回ほど茶道教室を行っている。こどもたちは日頃挨拶活動見守隊の方にボランティアしていただくんですが、世代間交流で学校にお招きしてゲストティーチャーをしていただいています。6年間の最後にお礼のお茶を点てて飲んでいただくことをやっている。また、中学1年生は茶筌の糸を入れる作業をしてマイ茶筌をつくって、卒業を控えた3年生がお別れ茶話会に自分の茶筌を持ってきて育友会の人がお菓子を用意してくれて、茶筌でお茶を点てて飲んでいただく。そこまでつながりができたんです。

挨拶活動見守隊の方が今年中学校の卒業式に参列したいとおっしゃっている。自分たちが見守隊を始めた時に小学校1年生だったこどもたちが中3になり、その子たちが小学6年生の時にお礼の感謝状を作って手渡してくれたので、それこそがウ

エルピーイングですよね、うれしくて3年間何かお礼がしたいと考えていたときに、その卒業を見守りたいとおっしゃったのでその気持ちは無下にできないと思います。郷土愛をいろいろな形で社会教育や子どもたちの中にどんどん浸透させていただきたいし、自分もこの学校で子どもたちに郷土愛を育みたいという気持ちがものすごくあります。茶道のいろいろな活動の中でもできますし、美術の作品を竹あかりの時にブースを出していただいたり、和菓子屋が協力してくれて来ています。地域を見守りしてくれている方々をお願いしたことがあったんです。朝「おはよう」の後に「いってらっしゃい」と言って欲しい。帰ってきた時には「こんにちは」の後に「おかえり」と言って欲しい。「おかえり」と言う事が大事だと思うんです。地域のこどもだという意識を大人もこどもも持つ。そうやってベースに郷土愛が浸透するような心持ちを挨拶一つでつくっていくのが学校教育の強みであり、連携している地域とのつながりがあり、地域の方が公園で遊んでいるこどもにも挨拶するようになりました。

社会教育も、毎年こうやって議論してより改めていく部分もありますが、それは常にバージョンアップしていくことで、単年度のイベントで終わりではなく、継続していくことに強い意味があって根付いていくことをどうサポートしていくか、計画していくかというのが、この会であって、その根っこをどう張れるかということのを大事にしていくことが社会教育を豊かにして充実したものにしていくなだと今日聞かせていただいて思いました。1年ここに來させていだきいい経験をさせていただきました。

大谷議長 ありがとうございます。今日のご意見を参考にさせていただいたり、それをもとに検討したり、修正が必要なところは修正していただいたりお願いします。この基本方針と重点目標は、定例教育委員会で承認を得る必要があるとのことでした。

事務局 ありがとうございます。本日いただいたご意見をもとに修正案を作成し、来月の定例教育委員会で議案として提出します。教育委員会でご意見をいただくこともありますので、内容についてはさらに手を加える必要性が生じることもあります。

浦林委員 その点についてよろしいですか。この会議の進め方だと出た意見について行政から返事があるだけで議論できていないので、熟議が大切とも言われるように、社会教育委員のこのメンバーでこそ、変えていくのに具体的な文言の訂正について議論し

の方がいいのではありませんか。

浦田生涯学習課長 いろいろなお意見をいただいた中で一番多かったのが、基本方針のところ
です。修正は事務局でおこないますが、この場で基本方針の文言についてもう少し
議論した方がありがたいなと思っています。

大谷議長 基本方針の文言について、内容的には何のためにどうするのか、そのプロセスはど
うなのか、それによって市民や子どもたちにどのような変容が起こっているのか、ど
のような段階まで来ているのか、結果どうなったのかという流れがもったきちんとわ
かるような文言に変えていくのがポイントだったのかと受け止めさせていただきました。

提案という形で、この場で全てを決められるわけではないので、みなさんのご意見とし
ていかがですか。

浦林委員 先程坂谷部長が個人と地域のウェルビーイングがあって、地域のウェルビーイング
は安心と安全だとおっしゃっていただいたんですが、私は多世代のかかわりというの
が、先程お話を伺った学校教育の中では実現できている。社会教育ではどうなの
かと考えた時に多世代のかかわりということと、市民がまちづくりにかかわっている
という主体性があるかどうか、それを育まないといけないという部分が、この基本方
針では弱いと感じています。

清水委員がおっしゃったように市民が参画を通して主体的に学び、人と人がつなが
り合えるような地域をつくっていくということが自分事だという視点が入るのではな
いかと感じたので、参画という言葉が違う言葉にしましょうというのがあってもいいか
もしれません。考え方として市民が自分事として主体であるという事と、多世代のか
かわりが見えるような文言にしていただけたらより良いのではというのが私の意見
です。

大谷議長 市民が自分事として捉えられるような文言を検討していただけたらいいというご意
見をいただきましたが、いかがでしょうか。

清水委員 今浦林委員が全部言うてくださった。

やはり市民の参画を痛切に思ったのは、二十歳のつどいは、運営委員会がつくって
すばらしい会が出来上がっている。市民の参画というのが欠かすことができない視

点かなど、それはやはりこの部分に入れて欲しいという思いで先程意見を言いました。

こどもが地域に参画するとか、こどもの権利条約とか言われていて、自治会活動の中にこどもの意見を入れていこうというような動きの中で具体的な文言を提案していただいた。

これを教育委員会で考えるのはそれでいいので、1つの意見として今日は発言させていただきます。

岡島委員　　今の話では、タイトルというのは、基本的に社会教育基本方針の設定からきていると思うけれど、そうすると社会教育基本方針の文面も変えていかないといけないということになりますよね。

坂谷生涯学習部長　　参画と協働ですね。何かものごとを決めていくプロセスにかかわっていただくことが参画、実際に実行し、ともに協力して動いていくのが協働。参画と協働というのは行政のどの施策においても物事をすすめていくプロセスの手法であると理解しています。清水委員や浦林委員、岡島委員がおっしゃったように市民の参画と協働により主体的に学ぶ人を育み、人と人がつながり支え合える地域をとという文章を入れるという手法もあるのかなと思いました。

市民参画と協働はプロセスであり手法であると思うのでそれ自身が方針になるのは、社会教育基本方針としては大きいかなと思います。社会教育基本方針のゴールとしてはもう少し狭めた目標を定める必要があると思いますので、今日お示したそこが主体的に学ぶ人を育み、人と人がつながり支え合えるというのが社会教育基本方針としての目指すところだという理解をしています。

浦林委員　　今の文言ですと、私はいいかなのと思ったのですが、「市民の参画と協働により」を頭に入れていただいたのであれば、「地域」の後の「市民とともに」の文言はいらなくなるのかなと思いました。

坂本委員　　清水委員と浦林委員がおっしゃっていることは根本的に同じ考えなんですけれど、先程あえて言わなかったのが、清水委員がちらっとおっしゃったように全部が主語がないんです。それが今部長から参画と協働という言葉が出てきている背景ではないかと思います。

個人的には同じ考えですが、いずれは市民が主体となって移行していくのは継続性から見てあたりまえだと思うのですが、これはあくまで令和8年度の基本方針と重点目標なので、令和8年度で狙うのはどこまでか、それぞれ個別で継続性があるかどうかまで進んでいるかは事業によって違うと思うんです。

最終的には同じ考えで子どもたちの成長、地域の大人たちの成長、老若男女の成長というのは社会教育の一環だろうと思いますんで、事業方針をどう達成していくのか、マスタープランでなければならないと思っています。

その中で今年の基本方針をどうするのか、まとめてしまうとこういう言葉になるのかと。括弧のあるなしというのはどこに重きを置くかでそれぞれの考えがあるので、どれも正解だし、おかしいということはないと思うんです。

清水委員　これを市民が見たときに、生駒市の教育がどんなところを目指しているのか見て分かるような文言にしてほしいと思います。

坂谷生涯学習部長　坂本委員のお話を聞いて、生涯学習施策というのは非常に地域性があり、かつ日本全国どの自治体にもあるけど、非常に個性豊かに育ってきた施策であります。それぞれの事業評価というのは、令和6年度はこんな実績があって令和7年度の具体的な取組はこういうものでしたとお示しはできるんですが、施策としてどういう達成度があって、何が欠けていて、どんな評価なのかというところの評価軸がない施策でもあります。どのように可視化していくのか市の施策の中でも難しい分野だと思っています。

なかなか数字評価もできないですし、効果が何年後に出るかも分からない施策で、課題も地域によってそれぞれ違いますし、非常に難しいというのが私の悩みです。

ですから、この場でいろいろ議論させていただくことで、視点を増やしていくのが必要だと分かることが自分にとって学びになるいい時間をいただけたと思っています。施策としてどうとらえていくか、市民にどう示していくかを考えていきたいと思えます。

ありがとうございました。

大谷議長　この後の事は議長、副議長、事務局の方でやりとしていきたいと思っています。貴重なご意見をいただいたことを生駒市の社会教育に生かしていかないといけな

いと感じました。

最後に原井教育長から一言頂戴いたします。

原井教育長 本日はありがとうございました。参加させていただいて、いろいろな立場のいろいろな切口のご意見が出た貴重な時間だったと考えています。

話題になりました基本方針の「人」「地域」になぜ括弧がついているか、私自身は、基本になる第3次生駒市教育大綱が人、地域、環境の3つの方針をあげているため、そこに基づいていると解釈をしておりました。

いろいろな考え方がありますので、これが市民に伝わるように私たちがどう考えていくのかという大事なご指摘をいただきましたので、この後定例教育委員会で十分に教育委員さんと協議をさせていただいて、来年度の方向性をしっかりと決めていきたいという風に考えております。

学校教育、地域との連携の話も出ました。

この間PTA協議会を開催しまして、市内の全ての学校の地域との連携の情報共有をしましたが、その後、ある民生委員さんが部屋に来られた時に、こどもと大人のかかわりというもの的大事とおっしゃいました。それは挨拶であり、態度であり、言葉かけであり、その中から今までは地域が学校をサポートする関係でしたが、これからは自分たちも学んでいかないといけないし、こどもたちにも活躍してもらわないといけないし、そうやってサポーターからパートナーになっていくことが重要という話を私に伝えてくださって、ほんとにそうだなと思っているところです。

生駒市として社会教育をどうすすめていくかということをおみなさんと一緒に考えていただきながら、市教育委員会としてもすすめてまいります。

本日はありがとうございました。

大谷議長 社会教育でこんなに議論ができてるのはすばらしいことだと思います。みなさんが委員として出てきていただいている元の組織の団体にも社会教育にかかわっているとお声がけいただいて、こんな話し合いもあったと伝えていただいて、社会教育の一員としての自分事としてとらえていただけるよう広めていただくことが大事な部分なのかと感じました。

それでは事務局から何かありましたらお願いします。

事務局 生涯学習課、スポーツ振興課、図書館の3月以降の行事について、チラシをご覧ください。指定文化財のパンフレットについて甫田課長から簡単に説明させていただきます。

甫田生涯学習課長 新たな2種類の市指定文化財のパンフレットをお配りしています。今月の24日に記者会見させていただいたもので、1月23日付で今回11年ぶりの指定です。現在ふるさとミュージアムで現物の展示をしています。子どもたちをはじめ来館された方が体感、実感できる仕掛けをつくっていきたいと思っています。ぜひふるさとミュージアムで実物を見ていただけたらと思います。

(2) その他

■ 社会教育、PTAの来年度の行事案内について

- ・日本PTA全国研究大会奈良大会(8/21、22開催)、分科会はたけまるホールで開催
- ・全国社会教育研究大会大阪大会(10/29、30開催)
- ・全国コミュニティ・スクール研究大会 in 京都(11/14開催)

■ 事務連絡

- ・今年度の社会教育委員会議は今回が最終。令和8年度第1回の会議は7月頃に開催予定。
- ・令和8年度は社会教育委員改選年度のためご協力いただきたい。

閉会